第3種郵便物認可

# コザ優勝 光る速攻

## ハンドボール 県高校春季KBC杯

ハンドボールの第11回KBC学園杯争奪兼第45回県高校春季選手権（主催・県ハンドボール協会、共催・KBC学園、県高校体育連盟、沖縄タイムス社）最終日は21日、県総合運動公園体育館で男女決勝を行い、男子は那覇西がコザを23―22の1点差で振り切り、優勝した。女子はコザが浦添を22―16で破り、頂点に立った。

3位決定戦は男子が八重山、女子は首里が制した。

今大会男女上位3校と、全国高校選抜大会に出場する男子興南、女子那覇西を合わせた男女各4校が県高校総体のシード権を獲得した。

【男子】
▽3位決定戦
八重山 21―18 浦添
▽決勝
那覇西 23（13―11、10―11）22 コザ

【女子】
▽3位決定戦
首里 21―16 那覇国
▽決勝
コザ 22（9―8、13―8）16 浦添

女子決勝　コザ―浦添　後半、コザの名嘉陽菜が11点目のシュートを決める＝県総合運動公園体育館（金城健太撮影）

## 女子

### 1年生トリオ躍動

ハイライト

メンバーの大半が1年生の女子コザが後半に浦添を引き離し、22―16で栄冠に輝いた。

序盤に3連続失点し、相手ペースに飲まれた。前半20分のタイムアウトで佐平牧生監督は「失敗したら切り替えよう。守って速攻。2パスで持っていこう」と、緊張気味の選手らを落ち着かせた。そこからリズムに乗り、前半終盤にパスカットからの速攻など3連続得点で逆転。9―8で後半に入るとすぐに4連続得点し、引き離した。

1年の田里優生子と名嘉陽菜、比嘉えみながそれぞれチーム最多の4得点。3人とも「もっと点を取りたかった」と気を吐いた。

センターで2年の仲村舞子は「出だしが悪かった。ミスを重ねて自分たちのプレーができていなかったが、前半の最後に立て直せたのはよかった」と話す。その上で「2年生2人が軸となり、ポイントゲッターの1年をもり立てていければ」と反省しきりだった。

掲げるのは「全員ハンド」。全員が出場し、25点以上が目標だ。2年の玉城妃捺主将と10人の1年がJOCジュニアオリンピックカップ選抜メンバーで実力は十分。体力面やシュート率を高め、夏の県総体でライバルの那覇西に挑む。（石川亮太）

女子を制したコザ

## 男子

### 那覇西、逃げ切りV

### 後半粘り1点差守る

薄氷の勝利だった。男子那覇西は終盤に粘りをみせたコザを23―22で何とかかわし、頂点に立った。

得意な「守備から速攻」の展開に持ち込めず、攻めあぐねた。前半を13―11で折り返したが、後半すぐに逆転を許した。GKのセーブからの速攻などの6連続得点で20―15と突き放したが、リズムに乗れたのはその時間帯だけ。最終盤はじりじりとコザの追い上げを食らった。

狙うのは全国選抜出場で今大会に不参加だった県総体16連覇中の興南だ。だが村山倖輝主将は「空回りしていた。甘いっすね。まだまだ練習が足りない。『打倒興南』とも言えないくらい」と猛省。「走り勝たないといけないチーム。守備からの速攻を鍛え直す」と気合を入れ直した。

久高清龍監督も「受け身になってしまった。何とか勝てた」と吐露。個の力で上回る興南に対し、「チームの連係力で対抗したい。守って速攻に磨きを掛ける」と夏を見据えた。

㊧男子決勝　那覇西―コザ　後半、シュートを狙う那覇西の金城旭希㊨男子優勝の那覇西

## 2選手出場

### Jエリートリーグ

て15歳の幸喜祐心（前ピック県総ひやごんスYU）

今季始まった「Jエリートリーグ」のFC琉球の初戦が21日、タピック県総ひやごんスタジアムで行われた。21歳以下の試合出場と、アカデミー所属選手に飛び級の機会をつくることなどが目的。トップ選手に交じって琉球U18のMF幸喜祐心(15)が先発出場したほか、同じくMFの友利太虹(17)は後半42分からピッチに立った。

## 川崎5得

2021 明治安田生命 J1 LEAGUE 〈第6節〉

明治安田J1第6節第2日（21日・埼玉スタジアムほか＝8試合）前節に引き